自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	☐ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として文書に示し、説明している。	○	もっと、具体的にほりさげ、身近な表現の理念を職員で考えていきたい。
2	☐ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務に流されることなく、利用者とのかかわりを大切にしたいという思いで、見守りやケアにあたっている。	○	利用者主体で可能な限り向き合う時間をもつよう心掛けている。
3	☐ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々とはだいぶなじみになって来ているが、理念の浸透にはいたっていない、と思われる。	○	パンフレット等で理念を目にしてもらっているが、取り組みとしては足りない。
Ⅱ				
4	☐ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と一緒に散歩等で挨拶できている。たばこを買いに行く様子を見てくれる。併設施設である温泉の来客者で入居者を知る人がいれば気軽に立ち寄ってくれている。	○	土地柄、近隣の家といっても少ない。ただ、酪農をやめ一人暮らしをしている方々がいるので、お茶のみなどに誘って、付き合いをしていきたい。
5	☐ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会での地域の方の踊り(ボランティア)、幼稚園や保育園児の友愛訪問などはできている。	○	地域の行事に合流したいという思いで連絡はとりあっているが、なかなか参加するのが難しい。利用者の状態にあう活動が見つからない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	包括支援センターから、突発的に訪問を依頼されて動いた事が一度ある。まだ、取り組みに至っていない。	○	介護の相談などに応じられるような余裕ができれば、地区の行事の中で、コーナーとして企画したいという思いはある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	認知症のみならず、ケアが利用者の生活を整える一という姿勢を持つ努力をしている。	○	具体的、計画的な取り組みになってはいないかもしれない。少ない人数ではあるが、時間をとって個別の対応策を話し合っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	どのような事が起こっているか、状況や対外的なことも報告している。職員の待遇や、困っている事も相談して、意見をもらっている。	○	利用者、家族も積極的に意見をだしてくれる。地域の代表者の方々も地域とのつながりに何か方法はないか思案して下さっている。これを継続していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町が主催する地域ケア会議へ参加し、他の事業所や民生委員等も含めた話し合いの場で、町としての取り組み・意見交換できる機会がある。	○	町主催の事業所の職員を対象にした意見交換会や学習会もおこなわれているので、職員をどんどん参加させている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は必要とする利用者はいないが、権利擁護事業についての利用は、関係機関と連絡をとって進めていけると考える。	○	職員間での学習会はできていない。事例が出た場合に持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞等のマスコミも含め日々の情報に目を向けている。関係部署でまとめた事例集なども読み、職員間でお互い注意している。夜勤で一人であっても、併設施設に夜勤者や他の利用者の目があるので防止できる意識は持っているとみている。	○	どの利用者にも公平に接するように、ひとりひとりの特徴や個性を普段から話し合い、手間がかかる、などという意識に至らないよう心がける訓練をさらにつんでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
かか				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	状況の把握とともに、説明が理解されたかお互いの合意を確認している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談事はいつでも話してくれている、また、家族の面会の際は居室でゆっくり談話できるよう居慮している。介護相談員の訪問もあるが、今のところ苦情等はない。	○	意見にはでていなくても、職員のなかでもっとこうしたい、という思いはある。なかなか細かい部分のお世話ができないのが現状である。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	その都度連絡はとっている。金銭管理も出納帳のコピーと領収書を渡し確認してもらっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が職員や第三者に不満を表出してくる場面はない。	○	家族会の招集ができればいい、この部分も含めてアンケートの実施を行ないたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社組織、又施設全体として職員個々の意見を聞く場や機会を設けていない。	○	運営への意見、提言の前に理念や方針を見直して全員で周知する体制づくりが必要と思っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や1対1での介護が必要な時は勤務調整やパートさんに急遽出勤してもらおうようにしている。他の部署(温泉のフロント・厨房)からの応援の要請もしている。	○	のんびり、ゆったりの生活、余裕のある介護を目指したい。利用者とともにできるときにできる事をしたい。しかし、やはりマンパワーが足りない。人材確保と中途退職者がでない職場を目指したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新採用者の受け入れに際しては、まわりでカバーしながら、ひとり立ちできるまで利用者が安心して過ごせるよう勤務メンバーに配慮している。	○	上記と同様。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画性はできていないが、研修の機会があれば参加させている。施設内での伝達講習や勉強会がほとんどできていない。	○ 復命書の回覧はおこなっていても、じっくり見ていない。資料だけではわからないので、研修を無駄にしないようにしたい。また、定期的(回数はすくなくとも)に身近なところから、勉強会を持って行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町が主催した勉強会一現場の職員かつ職種別の意見交換会などが行なわれているが、この際はグループホームは対象外であった。管理者は県の集会や花北地区の集会で交流の機会はある。	○ 町内に当施設含め3つのグループホームがある。内々には合同でお互いの良い点を学び機会を持とうと話はでているが実現していないので、企画したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会社全体として、幹部会議で各部署の状況を報告しているが、ストレス軽減に至っていない。毎日がやっとな、の思いが強いかもしれない。	○ お互い、職員間のコミュニケーションを深め楽しく、やりがいのある雰囲気づくりをしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は現場の状態、職員の思いなどなかなか把握する機会がとれていない。	○ 具体的に今後の対策は考えている。個々に面接できる機会を持ってもらいたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いを聴く努力は職員一同努力している。	○ 喜怒哀楽を表現し、不安気な様子はないか、常に察知して行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回訪問時、契約時を中心に希望を聞いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	特に、周辺症状が強い方には専門医の受診を徐々に勧めたりして安定を図っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所を決定する前に宿泊の体験をしてもらうこともある。	○	本人の納得という部分は難しい。だからこそ、楽しさ・笑いがみられるようケアの努力を今後もしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や縫い物など得意のことは、教えてもらい、個々の人生の歴史を語ってくれる時はその話を聴いて時を過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	嫁と姑の関係でギクシャクして他の子供等の相談で入所させるしかなかったケース、妻が入所し夫が一人暮らしになっているケース等がある。嫁の話をきくこともあり、後者は夫が面会にきて安心するまで相談ややり取りをした。	○	入所中に息子さんや夫を亡くすなど様々である。家族とは必要な情報をお互いに交換し、支援しているつもりである。遠慮や本音の部分の確認はアンケートなどで補っていく努力が必要と考える。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	どの利用者も家族・親戚・友人の面会があるので、良い関係は保たれている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行ってみたい、との申し出があれば(実家等)お邪魔したりして、支援している。(キーパーソンに相談して)		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	その場その場で口論があったはするが、手をひいてトイレに案内したりと、根に持った感情はなく、うまく共同生活で声をかけあっている。	○	スタッフが仲裁に入ることもあるが、まずまずいい関係が保たれている。これも見守りをかかすことなく続けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	もしかして、また施設を考えなければならない時のために待機者にしてほしい、との希望があった。荷物も預かったままにしている。	○	家族にとって、この利用者の帰る所は当施設である、と頼りにさらている。どう変化するかわからないが、職員にも受け入れを待つという旨は意思統一している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気遣いや、遠慮がちな人には心理的負担が生じないよう、状況を見て配慮・声かけしている。居室で1対1で食事をとったりして寄り添える時間を持つ努力をしている。	○	いつもと違う何かを感じたら、その方と向き合う時間を多くとるような関わりをとるよう職員は柔軟に対応している。後手後手にまわらないように早めの対応を心がけ、継続したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の訪問や契約時に把握できるよう、またケアマネからの情報も大事にし、追加追加しながら把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	上記と同じように把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	朝礼後に必ず、気づいた点を話し合い、様子観察・対応の見直しをし、ミーティングノートで申し送っている。ケアプラン(介護計画書)の変更に至らない場合あが多い。(ケアマネが対応しきれていない)	○	書面上の介護計画・個別介護計画書(掘り下げた具体策)が整っていない。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	上記と同様。	○	上記と同じ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録で新たな発見、気づきをどんどん記入している。そしてミーティングや申し送りで見直し変更したケアに取り組んでいる。	○	毎日の記録で抜けてる点は指摘し、見逃せない点は赤線を引くなどし、みんなが周知するようにしている。書面ができていないので、取り組む努力をする。
3. 多機能を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアでお花の先生が、ある利用者の習い事の継続に月に2回訪問があり、一緒に花を育てている。訪問に同行するのがその方の地域の民生委員さんでもう一人の入居者の担当地域でもあるため状況を見、こちらも知りたい事は尋ねている。	○	警察、消防、文化、教育機関とは共働の支援はない。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今までにその必要性が生じていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	9名の入居者の状況について、地域包括センターへ情報をもって意見をもらってはいない。	○	今後、必要な時と年に1～2回報告するよう計画したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が受診に付き添う事を原則としているが、できない場合は職員が家族の代理として医師の指示や突発的な受診の付き添いをし、かかりつけ医の診察・治療を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	9名中b5名は専門医にかかっている。4名は脳神経外科医、神経内科医、そして昔からのかかりつけ医である。5名中専門医を勧めたケースは3名で2名は以前からかかっていた。	○	主治医の判断や、こちらからの相談で対応していきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護職にて、日常の様子に応じて、対処している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院に同行したり、入院後の状態を把握し、今後の方向性について看護師から情報を得ている。また、MSWからも連絡があつてやりとりすることもあった。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に1例、みんなの中に入って何とか自分の頑固と気丈さで職員のケアをギリギリまで受け、入院した方がいた。家族とはその都度連絡をとって本人の希望どおり入浴や休養、食事等生活して頂いた。現在の入居者において、まだ、どこまでどうケアしていくか、家族と話ができていない。	○	できる限りここでの生活を継続してもらおうと考えているが、早急に今後についての意向を本人、家族に聞きたいと考えている。しかし、バックアップしてくれる在宅医療に取り組んで下さる医師が町内や近隣にはおらず、見取りを施設や自宅で取り組むことは困難である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	まだ、準備はできていない。	○	スタッフ、医療連携を考慮どこまでできるか、見極めたい。無理してかかえこんで人生の最期の見取りに悔いを残したくない。 (本人、家族、スタッフ共に)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えに至ったケースはまだない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	時として方言や、身近な言葉掛けのつもりが嫌な気分を与えているかもしれない、と思うことがあり、スタッフには後から気をつけるよう声をかけている。	○ 介護のプロとしての接遇にはスタッフ同士で遠慮なく注意と反省していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方ペースにあわせ、否定しないよう対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9名様々であるが、できることをし、一緒に行動が嫌な方は無理じいしない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	昔のなじみの美容院に行くかたもあるが、家族が外出がてらよって来る方もいる。	○ なるべく、昔を思い出すように働きかけているが、どこでも良い、近くでよいという方がいる。可能な限りなじんだ所を利用できるよう支援したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炒めたり、味付けしたり、メニューを立てる力が残っている人はいないようである。包丁を持って切ったりはできたり、準備、片付けはみんなで協力してできている。	○ 何か1品、得意だったものを作ってもらえることができればとアプローチしている。今後もアプローチし実現したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙する方はいる。お茶等は飲まず、水しか飲まない方もいる。個別に対応できる場合と一律になる事もある。	○ 定期的な嗜好調査も献立とあわせ必要であろうと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を毎日つけ、介助で排泄する人は確実に把握できるが、排便に関するチェックが難しい。トイレからできた時や寝る前等にこっそりと聞いて、対処している。食事やおやつ、外出前など誘導したり、声をかけている。	○	リハビリパンツだったが下着に軽い失禁パットに変えた方はいる。交換時さっぱりと気持ちよくなるため、できる限り、タオルで拭きとっていく事を続けたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴となっているが、午後1:30ごろから4:30頃までの入浴になっている。遅番が20:30までの勤務ではあるが、夜間入浴の実現は難しい。	○	温泉の湯なので、気持ちよさはあるが、希望には添えない。寝る前に入りたい方々は多いのが現状だが、そこに職員は4人必要と思われる。現状では不可能である。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後や午後に休養をとる方はいるが、建物の構造上、居室にリビングのテレビの音・他の人の会話はそのまま聞こえる。全9室。	○	耳が遠い人や気にならない方がいいが、静けさの確保は困難な建物になって改善はできない。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意な事・好きな事をもって行動できる方、一緒にあれば何かができる方には支援している。何もいやだ、という方もいる。歌を歌うのは全員一緒になってうたえる。ドライブも最初嫌がっても連れ出せば楽しんでくれる。臨機応変な対応をしている。	○	居室の掃除、シーツの交換など一緒にできるかたには一緒にしてもらっている。天候や状態によって活動に変化をつけている。細かな計画や時間で物事を進めるようにはしたくないと考えている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を楽しみたい人は、所持金があり、併設の温泉の売店で飴などを買ってきている。行き先を見届け、売店の職員に連絡して連携をとっている。	○	食材の買い物に同行する人には欲しいものがあつたら(個人のもの)買ってよい事を話しているが、なかなか購入する人は少ない。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り、全員・又は数名で気晴らしのドライブをしたり、散歩している。希望に添えるほどではないとは思われる。	○	外の空気に触れるように、ベンチに座ったり畑の周りに腰掛けたりすることもある。散歩のコースに休憩できる何かを設置できれば休み休みでも自然を満喫できたらと、休憩の確保の仕方を思案中である。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時季に応じて企画・実行している。	○	体力に応じて、個別に計画する事も考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く事はないが、電話をかけたい時はその都度利用できるようにし、状況も家族に心配かけないよう説明して支援している。留守電にメッセージを入れる事もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問客・面会者はいつでもきてもらっている。居室に椅子を運び、軽くお茶を召し上がってもらってくつろいで懇談の時間がとれるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束となることはしていない。散歩や家族を探しに行くときもとことん付き合う。(携帯電話は必ず持ってできるようにしている)	○	職員間の学習会はなされていない。(調査結果の回覧のみ)グループホームにおいて拘束となり得ることなど認識していけるよう話あいを持ちたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間に玄関と浴室の鍵はかけている。居室には鍵はない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	視野に入らない方が居た場合は、トイレか併設施設に遊びにいっているか、喫煙所かと常に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その都度、危険と判断したら預かって必要時に使用。安全に使える事がわかったら居室にもどすなどしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その方の行動の特徴に応じて介助している。	○	夜間等、居室で知らぬ間に転倒していることがあって、何度かヒヤリとすることはあった。家族へは防止できない場合がある事は説明している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	昨年は救急処置法について消防署よりきていただいて講習をうけた。今年には行っていない。	○	定期的訓練を計画したい。色々な場面を想定した訓練ができ、見てわかるマニュアルも作りたいと考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は1年に2回を目安におこなっており、地域の方への連絡網もある。	○	左記のとおりであるが、まだ地域の方を交えた訓練はしていないので上司へ働きかけ実施していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒しがちな方や、散歩に一人でいく方がいたりするので現状と職員のできる限りの対応を説明して理解をもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の異変に気づいたら、家族に連絡し家族が対応できなければ職員が提携の医師への受診等をその都度行なっている。	○	転倒や感冒には即対応、様子を見ることもあるが、高齢者であることから受診をするほうがほとんどである。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	9名中8名が内服しているが効能書きと一緒に薬を保管(貼り付けている)。さらに個人の内服表を準備し確認して1日分を夜勤者が分けている。また、きちんと内服したかまで確認する事を徹底している。	○	過去に、床に錠剤が落ちていたり、ポケットから薬がでてきたことがあるため、確認に確認をしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を毎日つけ、介助で排泄する人は確実に把握できるが、他の人はトイレからでてきた時や寝る前等に聞いて出ているかどうかを把握し、対処している。	○	水分や繊維の含んだ食事の摂取をこころがけている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後全員の口腔ケアは徹底できている。夜間は入れ歯を預かりポリデントの洗浄もできている。	○	一人ひとり付いていないと最後までできない。時間はかかるが見守りと介助を継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕の食事とお茶の時間のおやつ等普通に一般家庭で調理や購入するものを提供している。職員も同じものを常に一緒に食している。軟飯、刻みにする場合もある。水分量も1000ccから1500ccを目標として飲んでもらうようにしている。	○	町の栄養士・保健所の在宅担当の栄養士等にどのように管理していけばいいか問い合わせたが、まだ栄養管理面への取り組みができていない。他のグループホームも様々あり、課題である。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルをつくり、対応策はできている。入居者のインフルエンザ・(職員も)は全員摂取済みである。普段の調理や掃除でもとりきめがあり、実行している。	○	手洗い・うがいの徹底とはいうものの、きっちり入念な手洗いになっていない、またうがいも“ぶくぶく”でなく“がらがら”をさせたいが現状では習慣化できていない。職員も十分付き添う余裕がなく課題である。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的な用具の消毒を行い、乾物類など賞味期限のチェックの係が管理するようにしている。食材も残っているものは、使い切るか捨てるようにしている。	○	食材については上記の栄養面の管理とあわせて、1ヶ月・1週間そして週2回の買出しにあわせて献立を考えて購入し使っていけるよう検討したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇にベンチがあり、施設利用者のほかに、温泉利用者も一緒に座って雑談することもある。プランターの花を並べ明るさをももたしている。春は、施設の裏通りは桜並木になって花見ができる。	○	プランターの手入れや玄関の掃除を利用者と一緒に行いたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	構造上、食卓(食事用テーブル)とソファがフロアに並んでいる。、居室にテレビの音や会話が筒抜けで、静けさを求めたくとも我慢しなければならない状況はある。廊下に季節感のある絵に色を塗って張ったり、ドライブや誕生日の写真飾りしている。花もスタッフが持ち寄って飾っている。	○	棚の上に物が雑然と置きっぱなしになったり、枯れた花がそのままだったりする事が時々みられる。整然とするように心がけたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仕切りがなく、居室以外に部屋がないが、併設のフロアにいて休んだり、浴室横に座れる場所があるので、そこを利用している。	○	居室に他の入居者を招き居れたりすることはほとんどない。居室がもっとホッとできる居場所になってほしい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのものを持ってくるかたが少ない。孫の写真を飾ったり、小さな位牌(?)を枕もとにおいている方はいる。	○	日中、ほとんど食堂やリビングで過ごしているのが気にならずに居室にいてもいい雰囲気や環境づくりを家族とともに考えたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その都度おこなっている。換気(空気の質)は大事でありことを常にスタッフ間で意識している。ポータブルトイレ等使用している方には洗浄は当たり前であるが、消臭剤を置いて尿臭が気にならないよう配慮している。	○	窓の開け閉めや冷暖房・電気毛布、寝具等で暑さ寒さの調節を配慮できるよう、利用者さんの特徴をふまえてアドバイスや工夫することを継続していく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫されていると思う。歩行が困難になってきている方には付き添って歩行器を使用し介助して、安易に車椅子に頼らないようにしている。	○	どうしても足腰が弱りがちなので散歩の際は坂道や階段も通るようにしている。ただし、冬期間の運動不足の解消を屋内でできるレクリエーションや体操で補って、維持できるよう取り組みたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各利用者にあった活動を考えたり、役割をもってもらったりしている。できることはアドバイスしながら、見守りに徹するよう努めている。	○	分かる事の話や行動はひきだせるようアプローチしている。ただ、ゆっくり・じっくり関わられて、見守れる時間がもっとほしいのが実態で課題である。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	リビングから眺められる場所に花壇を作っている。またその周囲に折りたたみ式のテーブルと椅子をおいて談話やお茶のみをして過ごす。	○	出入り口は1箇所のため簡単にはでられないが、職員の見守りの中、活動している。冬場の気晴らし、散歩という外に出る機会をつくるのが難しいができるだけ、晴れ間には散歩等したい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)